



施設野菜の規模拡大のため、障害者の就労者数を増やし、作業の増加や高度化に対応できる作業アプリの開発導入により分業体制の整備や、高付加価値化による障害者の工賃の向上を図る。

基本情報

- 所在地：茨城県水戸市
- 団体名：有限会社 照沼農園
- 選定表彰：優良農福連携賞（令和3年茨城県共同受発注センター）
- 主力商品：水稲（20ha）、アスパラガス、水耕栽培によるリーフレタス、サンチュ、ベビーリーフ、チンゲン菜



取組の概要

- 水田20haで水稲栽培、農業ハウス2棟でアスパラガス、農業ハウス4棟で水耕栽培によるリーフレタス、サンチュ、ベビーリーフ、チンゲン菜を栽培。
- 福祉事業所（就労継続支援B型）と連携し利用者にベビーリーフの計量パック詰め作業、リーフレタス等の袋詰め作業、水耕パネルの清掃、水耕野菜の定植作業に携わる。
- 1週間に障害者一人当たり1日4時間、週3日の12時間作業を依頼。
- 生産した野菜は地元のスーパー、直売所で販売。



野菜計量と袋詰め



試野菜のパック詰め作業



夏場の高温時の作業改善
ハウス内の作業を暑さ対策で外のテントで

体制図

有限会社照沼農園

施設外就労

障害福祉サービス事業所 たけのこ

社会福祉法人 清香会 育心園

取組の成果

- 工賃が500円/時に向上し全国の時間当たり平均工賃222円（令和2年度）の約2.3倍になった。
- 作業方法やパッケージングを工夫し、作業時間が取り組み始めた当初の3分の1になった。
- 作業アプリを開発したことでパック詰めのグラム数が〇×とモニターで表記されるため計量ミスがなくなった。

所在地 ▶ 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町2724-1

連絡先 ▶ TEL:029-248-6288 E-mail:mailto:g23youhei@gmail.com

【取組のプロセス】

平成16年

営農開始

令和元年

障害者の農業体験会を実施

12名の施設外就労を受け入れ

令和3年

農山漁村振興交付金（農福連携対策）事業に採択

連携する福祉事業所が2団体になり16名の受け入れ

今後の展望

きっかけ

人手不足によりパート雇用による人員を確保できない状況のとき、茨城県共同受発注センターからの紹介で障害者の体験会を開催。

取り組みの工夫

- 野菜パック詰め作業では、作業方法の変更を繰り返したりパッケージを変更するなどの工夫を行い、障害者が作業をしやすい方法を考案。
- 地元IT企業と連携し、作業マニュアル、計量を容易にできるアプリの開発、パック詰め作業を行う部屋にエアコンを設置し暑さ対策の実施など、作業環境の改善を図る。



計量作業の説明

作業アプリの開発導入により作業効率の向上

- 地元のIT企業と連携し作業を見える化するためのアプリを開発して導入。
- パック詰め作業時の計量のミスをなくすため、作業数量をデータ化し計量器に○×で表記されるようなシステムを開発し、作業効率の向上を図った。
- 作業効率の向上により工賃を500円/時まで向上した。



作業方法を工夫した野菜パック詰め

農山漁村振興交付金（農福連携対策）を活用

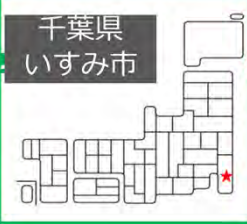
- 令和3年度農山漁村振興交付金（農福連携対策）事業を活用し、作業マニュアルの作成や先進地視察研修を実施し農福連携の強化を図っている。

GLOBALG.A.PやノウフクJASの取得を目指す

- 障害者が働きやすい分業体制の構築や作業マニュアルの整備を進める。
- 生産物の高付加価値化による障害者の工賃を向上を図るため、GLOBALG.A.PやノウフクJASの取得を目指す。



開発してアプリ 褒め褒めシステム



地元の牧場が堆肥を活用して約20年にわたり行ってきた食用菜花栽培を事業継承し、約4,500坪の畑を障害者、職員、地域との連携ネットワークを活用し農業経営に取り組む。

基本情報

- 所在地：千葉県いすみ市
- 団体名：社会福祉法人 土穂会
障害福祉サービス事業所
ピア宮敷第1工房
- 選定表彰：－
- 主な取組：菜花経営、ハーブ育苗・栽培、米育苗、ごま油製造販売、梨剪定枝拾い、ライ麦ストロー、ホエイドレッシング製造



菜花畑にて作業を終えた利用者

取組の概要

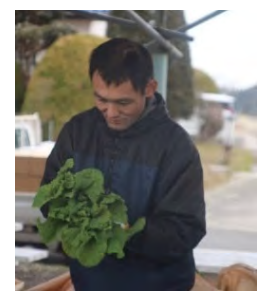
- 地元の牧場経営者から事業継承を受けた菜花生産を、栽培、収穫、出荷、販売まで農福連携により取り組む。
- 地元JAや農業事務所による栽培指導を受け農作業の知識、経験不足を補う。
- 菜花の品質保持のため、長年にわたり菜花栽培に関わる地域の高齢者（菜花ガールズ）が参画。
- 生産性向上のため利用者の強み、個性を活かした作業の見極めを行う。職員の育成の場として「農業で福祉が伸びる」を合言葉に取り組む。



利用者による菜花収穫の様子

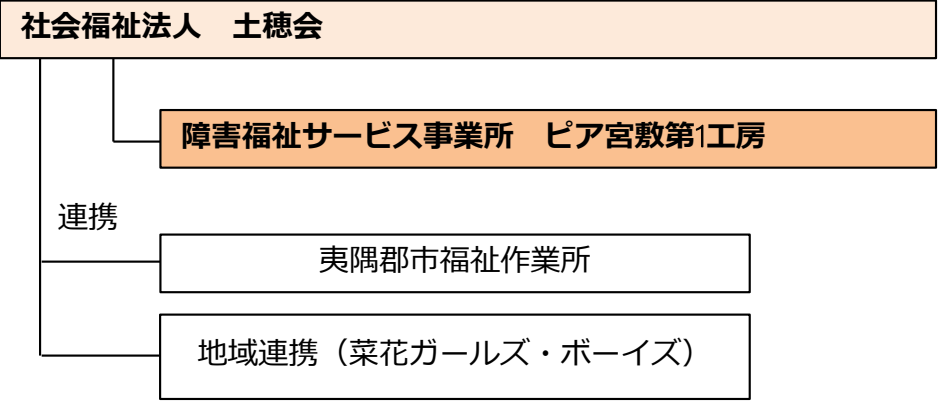


枝を使って間隔を測菜花の定植作業



選別作業中の利用者

体制図



取組の成果

- 菜花栽培においては、作業にかかわる障害者が当初の15名から25名まで増加した。
- 菜花の栽培に参加していた障害者1名が、作業を通じ体力がつき特例子会社に就職できた。
- 平均工賃が取り組み当初（令和元年）の13,000円から20,000円に向上。
- 年々、菜花栽培農家が減少する中、地域の菜花栽培維持が期待される。

所在地 ▶ 〒299-4504 千葉県いすみ市岬町桑田341-1
連絡先 ▶ TEL:0470-87-5201 E-mail:kobo4@tsuchibokai.or.jp
ウェブサイト ▶ <http://minnahatake.com/>

【取組のプロセス】

日中活動として
ごま油製造、切り
干し大根加工に携
わる

令和元年

菜花栽培を開始

令和2年

菜花に加え梨の剪
定枝拾いを受託

ライ麦ストローの
製造やハーブの育
苗を受託

令和4年

地元農家等からの
依頼で米苗づくり
の開始等、地域か
ら相談が入り始め
る

今後の
展望

きっかけ

地域活動で知り合った牧場が約20年間黒字で続けてきた食用菜花栽培を高齢化と人手不足で辞めたことを聞き、「もったいない」気持ちから勢いでスタート

事業継承による菜花栽培

- 事業継承により菜花の圃場やトラクター等の大型機械を無償で借り受け、菜花の栽培から販売までを一貫して取り組む。
- 販路が確保されていたこと、栽培に関して相談できる方がいることで安心してスタート。
- 菜花栽培は障害者だけでなく、地元の高齢者グループ「菜花ガールズ」と協力し取り組む。

農福連携をとおしての広がり

- 菜花生産をきっかけに、ほかの農業経営体からの仕事の受注につながっている。
- 都内の企業からの農業体験の受け入れなどを通して連携の輪が広がっている。
- 近隣地域の農家への施設外就労で人手不足解消の役を担う。
- 菜花が地元の飲食店で食材として使われているほか、いすみ鉄道とのコラボレーションによる菜花うどんの商品化につながった。
- 特別支援学校の農業体験の受け入れ等も行っている。

取り組みの工夫

- 利用者がより活躍できる支援の方法を模索し、事業所の職員が農家に経営などを学ぶとともに、菜花の栽培マニュアルの作成や利用者一人一人に合わせた治具の作成等を行う。
- 利用者の力量を決めつけずに、なんでもやってみようという声掛けを行い、利用者の強みを発見し作業に反映するとともに、タイムマネジメント、効率化などにも取り組み生産性の向上を図る。

農業で福祉が伸びる

- 法人の協力体制の広がりから職員の支援力アップ、そして利用者の活躍の場面が広がることで農業により福祉が伸びることを実感したことから今後のさらなる農福連携の促進を図る。



笑顔で作業している利用者さん



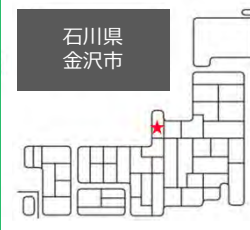
職員の支援力アップにむけた勉強会



いすみ鉄道とのコラボによる
菜花うどん



地元の飲食店に菜花を使った
食材の提供



農家・集出荷場と障害福祉サービス事業所との農福連携のマッチングをい、双方のパイプ役として、作業内容や労働条件の確認、日程調整、作業指導などの支援を行う。

基本情報

- 所在地：石川県金沢市
- 団体名：金沢市農業協同組合
- 選定表彰：－
- 主力商品：－



JA担当者と農家の打合せ



野菜の収穫作業

取組の概要

○JA金沢市管内の農家やJA野菜集出荷場と障害福祉サービス事業所に農福連携のメリットを説明し、マッチングを図る。

○マッチングにあたり、事前に農家や集出荷場での作業内容と、障害者が行うことができる作業内容、労働条件等を確認し、連携できる相手を選定する。

○障害者の主な作業としては、水稻の田植えの際の肥料・苗運搬、育苗箱洗浄、収穫された野菜の集荷の手伝い、洗浄・計量・選果・袋詰めなどを行っている。

○マッチング後は、双方の作業日程・人数の調整、障害者が作業を覚えるための作業マニュアル（写真入り）作成、現場での作業説明等を行い、継続的な連携に向け支援を行う。

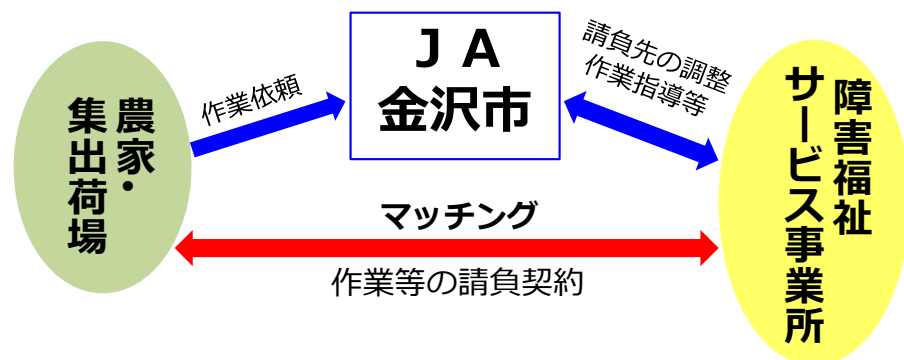


田植えでの苗箱渡し作業



野菜集出荷場での作業

体制図



取組の成果

- マッチング数の増加（平成30年度1件 → 令和3年度7件）。
- 農家や集出荷場の繁忙期に、まとまった労働力の確保が可能。
- 障害福祉サービス事業所の年間を通じた労働の確保及び工賃アップ。
- 障害者に多様な作業を紹介することで、労働意欲増進。
- 連携のメリットを双方が実感することによる、地域における農福連携の取組の定着。
- 広報誌で取組を紹介することで、他のJAに波及。

所在地 ▶ 石川県金沢市松寺町末59番地1

連絡先 ▶ TEL:076-237-0250

ウェブサイト ▶ <https://www.ja-kanazawashi.or.jp/>

【取組のプロセス】

平成30年

農福連携の担当室
を設置

きっかけ

○ 農家や集出荷場の労働力不足を補うために、JAが
障害福祉サービス事業所との連携を試みる。

JAに農福連携の担当室を設置

- 労働力不足の問題を抱える農家に、農福連携を提案。
- 障害者福祉サービス事業所に、農家への利用者派遣を提案。
- 農福連携に向け、双方の要望・条件等を確認し、利用者派遣の契約を進める。



白菜収穫指導と作業

農家と障害福祉施設との
連携スタート

令和2年

野菜集出荷場との
連携スタート

JA管内で連携が進む

- 農家の繁忙期に、障害者福祉サービス事業所からの利用者派遣を調整。
- 初回の派遣においては、JAが作業指導を行う。
- 農作業を習得した障害者が増加し、1日当たりの派遣者数が拡大。
- 野菜集出荷場との連携を始めたことで、作業内容、作業時間が増加。



白菜選別指導

農福連携の取組を
広報誌で紹介

令和3年

JA内で、農福連携
の課題についての
研修を開催

農福連携をJA内外に波及

- JA主催の農福連携事業等研修会を行い、農家、障害福祉サービス事業所やJA職員の学習を深める。
- 広報誌でJA管内の農福連携の取組を紹介することで、他のJAに波及。



水稻苗箱洗い作業

今後の
展望

幅広い農福連携を求めて

- 双方がメリットを感じることのできる農福連携を実現し、継続的な連携を目指す。
- 農福連携のメリットを地域に広め、マッチング数を拡大。



農福連携利用計画



「障害がある人もない人も一緒に働ける居場所を創る」ことを目指して、6次産業化をベースとした農福連携に取り組む。

基本情報

- 所在地：愛知県犬山市
- 団体名：株式会社ココトモファーム
- 選定表彰：愛知のふるさと食品コンテスト優秀賞（令和3年度）
第4回あいちサービス大賞特別賞（令和3年度）
- 主力商品：米粉のバウムクーヘン



自家製米粉のグルテンフリーバウムクーヘン

取組の概要

- 農業部門は、農地中間管理事業を活用して引き受けた農地6haと、遊休農地を復元した0.4haを含む、8.3haで水稻を栽培（令和3年度、約30tを生産）。
- 製造部門では、市内3ヶ所の工房で製粉した米粉を原料に100%グルテンフリーの米粉バウムクーヘン等の加工品を製造。
- 販売部門は、愛知県内計10店舗で米粉バウムクーヘン等の自社開発スイーツを販売。
- 米の生産から加工品の製造・販売まで自社で一貫して行うことにより、障害者一人一人の特性に合わせて農業、製造、販売それぞれの部門で働ける場を提供。



愛知県内に10店舗ある直営販売所



農福連携での稲刈り

体制図

株式会社ココトモファーム

農業部門

製造部門

販売部門

就労移行支援
ココトモカレッジ

就職訓練

連携

J A 西三河

株式会社名古屋鉄道

犬山市シルバー
人材センター

取組の成果

- 令和2年11月から販売した米粉バウムクーヘンが好調となり、売上げは3,280万円（令和2年）から2億3,097万円（令和3年）と1億9,818万円も増加。
- 米の生産、加工品の製造、販売までを一貫して行うことで、障害者の雇用の場を創出。障害者の賃金は35万円/年（令和元年）から132万円/年（令和3年）と97万円/年も増加。
- 障害者が販売にも携わることで消費者と交流する機会が増え、経済面だけでなく精神面の充実、やりがいの向上にもつながっている。

所在地 ▶ 愛知県犬山市橋爪石畑60番地2

連絡先 ▶ TEL:0568-54-4717 E-mail:soumu@cocotomo-farm.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.cocotomo-farm.jp/>

【取組のプロセス】

平成31年3月

きっかけ

障害者の社会での居場所づくりを模索していたところ、農林水産省が主催する農福連携推進フォーラムに参加したことをきっかけに、農業と福祉の連携に取り組み始める。

2 haの農地で水稲栽培を開始

令和元年9月

令和元年9月
「株式会社ココトモファーム」を設立、法人化

株式会社ココトモファームの設立（法人化）

- 令和元年9月に法人化し株式会社ココトモファームを設立。
- 経営理念に「ココでトモだちになろう」を掲げ、「障害がある人もない人も一緒に働ける居場所を創る」ことを目指して、6次産業化をベースとした農福連携に取り組む。
- 農地中間管理機構を活用して農業を辞めた担い手農家の農地（6 ha）と、遊休農地（0.4 ha）を追加した、合計8.4haの農地で水稲栽培を行う。



農福連携での種まき作業

令和2年

令和2年11月
加工商品「米粉バウムクーヘン」の製造・販売を開始

加工商品（米粉バウムクーヘン等）の開発・販売

- 令和2年11月から、自社製粉100%によるグルテンフリーバウムクーヘン製造・販売を開始。
- 米の生産からバウムクーヘンの製造・販売まで自社で一貫して実施するなど、6次産業化をベースにした農福連携に取り組む。多くの消費者と関わりを持つ商品ができたことで、障害者は消費者と交流する機会が増え、経済面だけでなく精神面の充実、やりがいを感じられる職場環境を構築。
- 直営店を含む愛知県内10店舗とインターネットでの販売により、売上げは約3,200万円（令和2年）から約2.3億円（令和3年）に急増。
- JA西三河と連携して地域農産物を使ったメニューを提供するほか、名古屋鉄道と連携して犬山市桃太郎神社で「桃太郎マルシェ」を共催。
- 障害がある人もない人も同じ賃金で雇用して所得向上を実現。障害者等一人当たりの賃金は、35万円/年（令和元年）から132万円/年（令和3年）に増加。



バウムクーヘンの製造

今後の展望

商品販売と障害福祉を組み合わせたモデルの全国展開

- 障害福祉施設と連携し、米粉のバウムクーヘンと障害福祉を組み合わせたモデルを全国に展開。
- 社会参加意識の向上と賃金や工賃の上昇、及び障害福祉施設の経営の安定化を図る。



桃太郎マルシェでの販売



障害者が「支援される側」ではなく「地域をつくる側」になる未来を目指し、荒廃農地を活用して万願寺とうがらしやハーブを生産・加工・販売するなど、「農業」を主軸とした取組を進める。

基本情報

- 所在地：京都府京田辺市
- 団体名：三休合同会社
- 選定表彰：
 - 福祉未来価値創造大賞2020 銀賞
(主催：NPO法人Deep people)
 - ジャパングレードビアアワーズ2022銀賞
(主催：日本地ビール協会)
- 主力商品：
 - 万願寺とうがらし、ハーブ、ベビーリーフ、ハーブティー、ローゼルを使用したビール等
- イベント：
 - 野菜が入場料の音楽イベント、障害のある子どもたちのカモミール収穫体験等

取組の概要

- 精神疾患、知的障害、身体障害など、様々な障害特性を持つ25名と農業の6次産業化に取り組む。
- 荒廃農地を活用して、万願寺とうがらし、ハーブ等を生産し、JAや道の駅、飲食店に出荷。
- 生産したハーブを用いたスイーツやドリンクを提供するカフェを運営。
- 野菜が入場料の音楽イベントや地域の大学と協働したイベントの開催、民間企業等と連携し、ローゼルを用いたビールの開発を行う。



万願寺とうがらしの収穫



野菜が入場料の音楽イベント

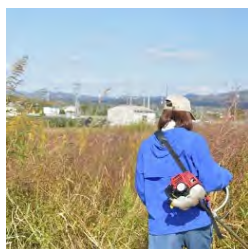


ローゼルを使用したビール

体制図

三休合同会社

三休 (就労継続支援B型事業所)



荒廃農地を活用

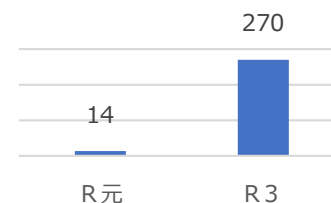


万願寺とうがらしの栽培

取組の成果

- 農業収入は、約14万円（令和元年）から約270万円（令和3年）に向上。
- 栽培面積は、20a（令和元年）から47a（令和3年）に、カフェ来客数は、52人（令和2年）から105人（令和3年）にそれぞれ増加。

農業収入（万円）



所在地 ▶ 京都府京田辺市大住池ノ谷45-1

連絡先 ▶ TEL:0774-66-2162 E-mail: sekoquchi@3-kyu.com

ウェブサイト ▶ <https://3-kyu.com/>、<https://greenz.jp/2022/11/30/sankyu/>

【取組のプロセス】

令和元年

きっかけ

「障害者が活躍できる仕事」として「農業」を軸とした取組を検討した際、障害者が「支援される側」ではなく「地域をつくる側」になる未来が見えた

荒廃農地を活用して農業を開始

- 「福祉は地域に混ざるもの」という思いを持ち、地域の方々との話し合いを定期開催。
- 美味しい作物を生産・販売することで、工賃を高くでき、地域課題である荒廃農地の活用に寄与する。「障害者が支援される」側ではなく「障害者が地域をつくる側」になる未来が見えた、「農業」を軸とした取組を開始。



カモミール収穫体験

令和2年

6次産業化を進める

- 畑作業と、室内作業の充実を図るため、ハウス整備と併せて、6次産業化を進める。
- 6次産業化について、具体的には「ハーブティー製造」など加工の取組拡大やハーブを使用したスイーツやドリンクを提供する「三休カフェ」の運営を開始。



ハーブティー作り

令和3年

加工の取組と出荷先の拡大

- ハーブティーの製造を開始。また、JAへ万願寺とうがらしの出荷を開始。万願寺とうがらしの令和4年度の出荷量は前年対比2倍（約3トン）を達成。
- ローゼルを使用したビール「THANK YOU FOR THE MUSIC」を民間企業や飲食店と共に開発。ジャパングレードビアアワーズ2022銀賞を受賞。



ベビーリーフの出荷作業

今後の展望

障害者が「なりたい姿」に近づき、「やりたいこと」ができるようになる

- ローゼル及びその加工品の販路拡大などにより、工賃向上を目指す。
- 地域の大学や地域関係者と連携したイベント等を通じて、地域との連携深化を図る。
- もっと働きたいと思った人が一般就労に挑戦できる「三休」を目指す。

就労継続支援B型事業所「三休」開設

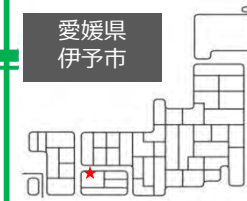
農業開始

カフェオープン

ハウス整備

ハーブティー製造開始

ローゼルビールプロジェクト実施



「誇れる産品を農場からテーブルへ、を理念に誰もが活躍できる地域社会を目指し、農福連携により栽培したきくらげを用い、多くの企業と連携して加工品の開発を行い、連携企業の輪をひろげていく。

基本情報

- 所在地：愛媛県伊予市
- 団体名：株式会社和光ワールド
- 選定表彰：－
- 主力商品：きくらげ
- イベント：農福連携地域モデルづくりキックオフ会



エネルギーが地域で循環する栽培方法で育てたきくらげを地球環境に配慮した紙パッケージで新発売。乾燥きくらげ10g(小売用)

取組の概要

- 奥内子の天然水を利用したこだわりのきくらげをサイズ分け等の多くの手をかけることにより付加価値を高めることに成功し、出荷量を伸ばしている。
- 多数の企業と連携し、きくらげの商品を開発しており農福連携の輪を広げている。
- 地域の農業高校を対象に農福連携の1日体験に招くことにより交流を図り、この取組が当該法人と農福連携の認知を促す契機となっている。
- 障害を持つ方にも商品パッケージをデザインしてもらうなど、得意分野を活かした取組を展開しており、令和3年は7人の障害者の方が就業している。
- 今後は荒廃農地を活用し、他の作物の生産も行っていく予定である。



きくらげ栽培の様子

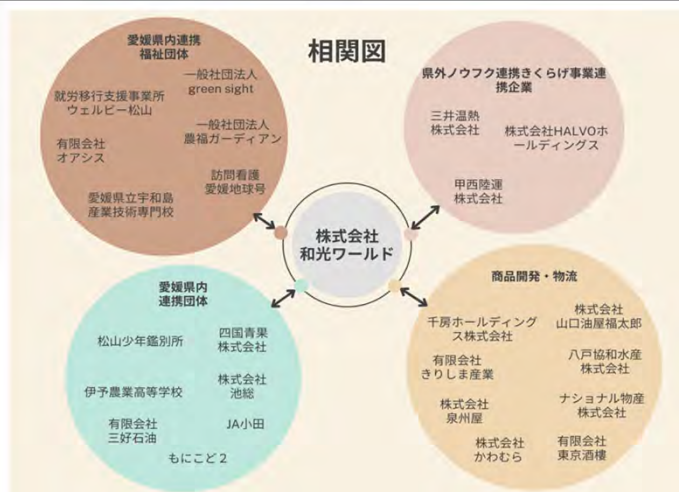


農業高校の生徒が1日農福連携体験に来た時の様子



令和5年度に販売開始のベジカレー

体制図



取組の成果

- ・ 令和3年に地域の福祉施設から施設外就労で障害者を受け入れた経験により、障害者の方々の農業への可能性を大いに感じ、障害者枠での一般就労の正社員2名の雇用が始まった。
- ・ それぞれの得意を見つけ活かせる仕事を取り入れ、目標設定シート、自己分析チェックリスト等を活用し、自発性や仕事のパフォーマンスが向上したことで、賃金が向上した。

所在地 ▶ 愛媛県伊予市市場甲430-2

連絡先 ▶ TEL:090-1665-0018 E-mail:info@wakoworld.com

ウェブサイト ▶ <https://www.wako-world.com>

【取組のプロセス】

平成19年

障害者の方の工賃が少なすぎること疑問を抱いていた前任者と令和2年につながる。

令和3年

食品メーカー・食品総合卸社からの支援。

令和4年

障害者の方々の可能性の大きさを改めて実感したことにより、障害者枠での一般就労の雇用を開始。

地域の企業の方々からの支援により、荒廃農地の活用が始まる。

様々な障害を持つ方々が活躍できる場所にするには商品の価値をどう高めるかが必須であると考える。



GREEN SIGHT

一般社団法人green sight
就労継続支援B型
(グループ会社)

今後の
展望

きっかけ

○障害者の方々の活躍できる場所が少なすぎると思いはじめたこと。

きくらげ栽培で菌床の研究から全国各地へ栽培指導を行ってきた経験を活かし、ノウフクきくらげ農場の運転を開始

- 地域の福祉施設から施設外就労に来て頂き、生産量の向上に伴い、作業に従事した者の工賃が向上。
- 従事した障害者の人数が10名に至り、ノウフクJAS取得によって2年から3年の1年間で販路が3倍になる。
- 農福連携周知活動の一環として、イベントを開催。地域の農業高校を招いての農福連携の1日体験交流が始まる。(第1回)
- 認定農業者になる。

助け合うことで生まれる本来の豊かさにつながる心地よさを体験し、ブランディング開始

- 農福連携により、きくらげ栽培に一層丁寧な手をかけられると感じ、収穫のタイミング、サイズ分け等により、他にはない生産が可能になる。
- 食品メーカーとの連携により、高品質な製品化が可能となり販路が広がる。
- 県外からも様々な企業、学生が現地視察や研修に訪れる様になり、交流人口が増加し始める。

欠かせない商品開発、しかし販売できる製品に仕上げるには専門の知識や経験が必要(生産工程や衛生管理、コンタミ防止、添加物の種類など)

- 海外での流通を視野に入れ、国内においても流したいところへ流せる物流を意識し、食品メーカーに商品開発の工場選びから試作、パッケージ素材、流通までほぼ全てに関わっていただくことにより、連携の輪も広がり、利用者の方々のやりがいや生きがいにもつながっている。
- 以前の作業所では休みがちだった利用者の方が「毎日ここへ来たい。」と話す様になり、現在では皆勤となって工賃が向上した。

生産施設周辺の過疎化の進む、美しい自然の残るこの地域を農福連携をプラットフォームに、生産人口と交流人口を増加させる

- 令和4年11月1日に、グループ会社で就労継続支援B型の認可を受けたことにより、様々な障害をもつ方々への直接的な支援を行うことが可能になり、一人でも多くの方々のやりがいや生きがいにつながる活躍の場、人につながる居場所として、農福連携を中心に地域の課題解決に地域とともに取り組む。令和5年度には同様の取組を滋賀県、沖縄県に展開していく予定。



高齢化により荒廃農地となった畑を活かす



千房ホールディングスとの連携商品



NYから農福連携の視察へ